生活文化常任委員会資料
2020 年(令和2年)12 月 11 日
市民生活局市民協働推進室 コミュニティ・生涯学習課

中学校区コミセンモデル事業の検証結果と今後の方向性について

１　中学校区コミセンの位置づけと経緯

本市のすべての小中学校区にあるコミセン（以下、「小コミ」「中コミ」とする）は、市民が集まり交流して良好なコミュニティを作る目的で設置されました。

もともと小中のコミセンは同じ役割を有していましたが、次第に規模の大きい中コミでは生涯学習やサークル活動が盛んに行なわれ、小コミでは自治会他様々な地域団体の活動が中心となってきました。

そして平成１８年度以降、協働のまちづくりにかかる提言や条例が策定され、小コミはまちづくりの拠点、中コミは生涯学習の拠点と役割分担されました。

しかし近年、中コミは特定の市民が学習やサークル活動に取り組むにとどまり、生涯学習等を通じ様々なコミュニティや団体活動への参画を促し、良好な地域社会を作るという本来の機能が停滞しているのではないかという意見がありました。

２　モデル事業の目的

中コミは学習や文化・スポーツに親しむ市民が交流し、エリア内の様々な団体の活動に参画していくといった「学びのハブ」としての機能が期待されています。

そのために、中コミの既存の事業やルールを見直し、より多くの市民が交流し、様々な活動への参画を進めていく支援ができるようモデル事業を実施しました。

併せてコーディネートを行うエリアマネージャーの担当区域を検証しました。

３　モデル事業実施状況（令和元年度、令和２年度）

（１）エリアマネージャーの配置

令和元年度：所長に変え、大蔵・錦城の２コミセンに１人のエリアマネージャーを配置しました。

令和２年度：朝霧コミセンと朝霧北コミセンの統合を機に、所長に変えて１人のエリアマネージャーを配置しました。

（２）コミセン管理業務の効率化

コミセン業務の棚卸しを行い、業務整理等によりエリアマネージャー及びコミセン職員の管理業務の効率化を図りました。

（３）学習事業の見直しとコーディネート業務

コミセン高齢者大学や市民講座等のカリキュラム見直しを行い、受講者層の幅を広げるとともに、エリアマネージャーがまちづくり協議会など各種団体との関係構築に努め、相談業務のほか講座やイベントを通じ、市民を様々な活動へ「つなぐ」コーディネートを行いました。

（４）ウィズコロナ～新しい学習スタイル～の導入

モデル校区だけでなく全校区において、ウィズコロナ対策として、あかねが丘学園と連携し、オンラインによる少人数の教養講座を実施しました。

４　モデル事業の検証結果

（１）コーディネート業務の重要性の認識

まちづくり協議会のメンバーがコミセン市民講座の講師となったことをきっかけに、学習者が地域活動へ参画していくようになったことなど、エリアマネージャーによるコーディネートの効果が確認されました。

（２）エリアマネージャーの担当区域

管理業務の効率化はある程度できましたが、まちづくり協議会など各種団体との連携をコーディネートするためには、基本的に１中学校エリアに１エリアマネージャーの配置が必要です。

（３）実施講座への新たな市民層の参加

各講座の狙いやターゲット層の明確化、オンライン授業の導入、広報誌のリニューアルやSNSでの情報発信など、講座内容やPR方法を見直すことで、新たな市民層の受講に繋がりました。今後もさらなる工夫が必要です。

（４）ウィズコロナに対応した新たな学習カリキュラム

大人数を一度に集めて行う講座ではなく、比較的少人数で分散型のカリキュラムが必要です。

５　中コミの今後の方向性

上記の検証結果をふまえ、次年度から下記の取り組みを進めていきます。

（１）エリアマネージャーの全中コミへの配置

全中コミに、所長に変えてエリアマネージャーを１名配置します。

＜エリアマネージャーの主な業務案＞

・エリア内での学習にかかわる情報収集、発信
・生涯学習講座等主催事業の企画、運営
・エリア内の団体（まち協、地区人協、NPO など）との人脈づくり
・「繋ぐ」ためのコーディネート（交流イベント、相談業務など）
・自主的な学びの機会の立ち上げ支援　　等

（２）（仮称）あかねカレッジライトコースの創設

新型コロナウイルスの感染拡大防止と、高齢者の学びの裾野拡大を図るため、新たに（仮称）あかねカレッジライトコースを創設します。

＜（仮称）あかねカレッジライトコースの概要案＞

・随時入学が可能
・各中コミで、オンライン講座（月１～２回程度)、通常講座（月１～２回程度）を実施
・受講生は好きな講座を好きなコミセンで自由に受講できる